



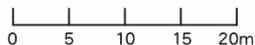
みんなで守る郷土の自然地域 常磐山のカンシ林

自然観察会用ガイドブック



みんなで守る郷土の自然

「常磐山のカシ林」案内図



〇〇〇 散策巡回路 (石畳全長116m)

● アシオスギ

● ウラジオガシ

● ホウノキ

● 案内板

● 歌碑





【常磐山のカシ林と遊歩道】

島根県指定「みんなで守る郷土の自然地域」の指定を受け、波佐文化協会が管理団体として、施設整備と清掃奉仕活動を行っている。

このカシ林は33株のウラジロガシ(300年生)、100株のヤブツバキ群、常緑低木(チャボガヤ、ユズリハ、シロダモ、ハイヌガヤなど)の混成林で樹間を遊歩道(石畳)160mが敷設されている。自然観察にうってつけの樹林帯である。



【常磐山の大杉】

八幡宮の裏山には、アシオスギと称される大杉5株が島根県指定天然記念物、日本老樹名木指定、島根県の巨樹130選などに選定されている。一番の巨木は樹齢1千年と推定される。目通り8.5m、根回り11m。秋には紅葉し、春には新緑がよみがえる大杉である。



【ウラジロガシ】

ブナ科コナラ属の常緑広葉樹。高木(こうぼく)は、植物学の用語で、樹高が5mを超える植物のことである。鋸歯が鋭くとがるのが特徴。葉の裏面に粉白色を呈す(これが和名の由来である)。雌雄同株。





【ヤブツバキ】

高さは10～15mになる。樹皮は灰白色でやや平滑。小瘤状の皮目が多く、ときに微細なしわがある。生育が遅いため、材は詰まって強く堅く、磨けば光沢が出る。葉は互生、葉身は長卵形で厚くて革質、硬い。表面は光沢があり、裏面は淡緑色。主脈は凹み、側脈はあまり目立たない。縁には細かい鋸歯がある。



【チャボガヤ】

積雪に適応した樹形で、幹の下部が地を這い、根際から枝が斜上し、高さは3mほどになる。枝は赤みを帯びる。葉の形は線形で長さ20-25mm、幅3mm、表面は濃緑色で光沢を持ち、裏面は緑色で気孔帯がある。先端は針状に尖り、触ると痛い。花期は5月、雌雄異株で雄花は黄色、雌花は緑色。種子は緑色の仮種皮に包まれ、翌年10月頃、紫褐色に熟す。



【ユズリハ】

高さは10mほど、雌雄異株。葉は長さ20cmほどで、枝先にらせん状につく。花は5月から6月に咲き花被がなく、葉腋から総状花序を出す。果実は10月から11月に熟し、黒褐色になる。ユズリハの名は、春に枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲るように落葉することから。その様子を、親が子を育てて家が代々続いていくように見立てて縁起物とされ、正月の飾りや庭木に使われる。





【シロダモ】

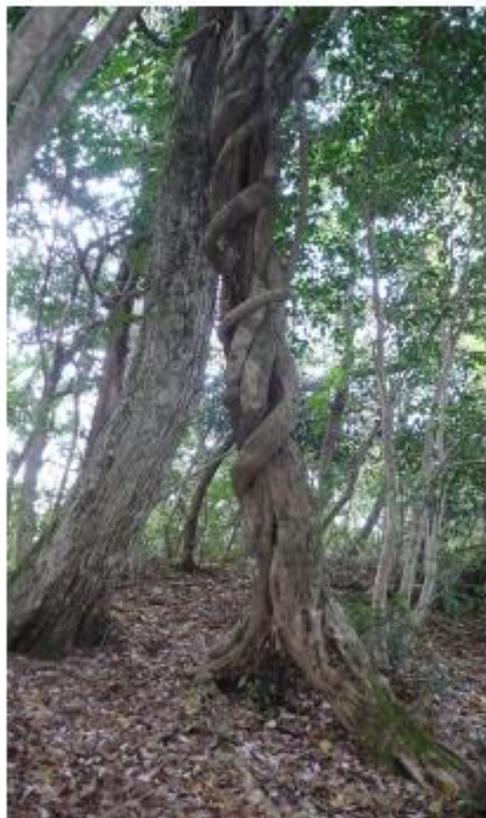
樹高は10～15mに達する。幹は直立し、樹皮は紫褐色～暗褐色。若枝には黄褐色の絹毛がある。葉は互生、葉柄があり、枝先に密にする。葉身は長楕円状披針形で、長さ8～18cm、先端は尖り、3行脈が目立つ。若葉には黄褐色の絹毛があるが、後に表面は無毛になり、裏面は粉白色を帯び、多少絹毛が残る。雌雄異株。花期は秋。花は散形花序で、葉腋に黄褐色の小花を多数つけ、翌年の秋、果実が赤色に熟す。果実は楕円状球形で、長さ12～15mm。木全体に精油を含み芳香があり、種子から採油し、蠟燭の材料とする。



【ハイヌガヤ】

積雪に適応して幹の下部が地を這い、枝は斜上し、高さは1-2mほどになる。葉の形は線形で長さ25-35mm、幅2.5-3mm、表面は濃緑色で光沢を持ち、裏面は粉白色を帯び、気孔帯がある。先端は尖るが触っても痛くない。花期は5-6月、雌雄異株で雄花は黄色、雌花は緑色。種子は10月頃、外種皮が赤く熟し、食用になる。





【ヤマフジ】

他の木に巻きついて大きく成長する。蔓は上から見ると左回りで、フジとは逆。花は淡紫色で、花序はフジに比較して短い。



【ホウノキ】

大きくなる木で、樹高30 m、直径1 m以上になるものもある。樹皮は灰白色、きめが細かく、裂け目を生じない。葉は大きく、長さ20 cm以上、時に40 cmにもなり、葉の大きさではトチノキに並ぶ。葉柄は3-4 cmと短い。葉の形は倒卵状楕円形、やや白っぽい明るい緑で、裏面は白い粉を吹く。互生するが、枝先に束生し、輪生状に見える。花も大型で大人の掌に余る白い花が輪生状の葉の真ん中から顔を出し、真上に向かって開花する。



【クロモジ】

クスノキ科の落葉低木。枝を高級楊枝の材料とし、楊枝自体も黒文字と呼ばれる。香料の黒文字油がとれる。茎は高さ5メートル程度まで成長する。若枝ははじめ毛があるが次第になくなり、緑色のすべすべした肌に、次第に黒い斑紋がでることが多い。葉は隋円形、深緑でつやはない。葉裏はやや白っぽい。雌雄異株。花は黄緑色で、春に葉が出るのと同じ頃、葉脇から出た散形花序に咲く。果液果で10月頃に黒熟する。葉や枝には芳香がある。





【アカメガシワ】

トウダイグサ科アカメガシワ属の落葉高木。新芽が鮮紅色であること、そして葉が柏のように大きくなることから命名された。





【ヤダケ】

ヤダケ(矢竹)は常緑多年生のタケ亜科の植物の一種である。竹と付いているが、成長しても皮が桿を包んでいるため笹に分類される。種名は矢の材料となることから、昔は矢軸の材料として特に武家の屋敷に良く植えられた。現在は庭園竹として植栽され、盆栽にも向く。矢の他、筆軸、釣り竿、キセルの羅宇、装飾用窓枠に利用されている。





【ネズミモチ】

果実がネズミの糞に、葉がモチノキに似ていることから付いた。果実は長さ8-10mmの棒状に近い楕円形で、はじめ緑、後に表面に粉を吹いて黒く熟する。









【マムシグサ】

形状に変異が多い多年草で、成長すると高さは50 - 60センチメートルに達する。葉は2個あり、楕円形の小葉が7個から15個つく。偽茎は、葉柄下部の2つの葉鞘部分が重なってできたもので、紫褐色のまだらな模様がある。この模様がマムシに似ていると考えられたところからこの名がつけられた。雌雄異株である。晩春に、花茎を直立させて開花する。苞は紫色に近く、白線がある。なかには苞が緑色のものもある。花のつき方は肉穂花序の代表例で、苞の中にまっすぐ立つ。果実は秋に橙色から赤色に熟し、トウモロコシに似た形状の果実を付ける。









チャヒラタケ



ユフキササルノシカケ



カワラタケ

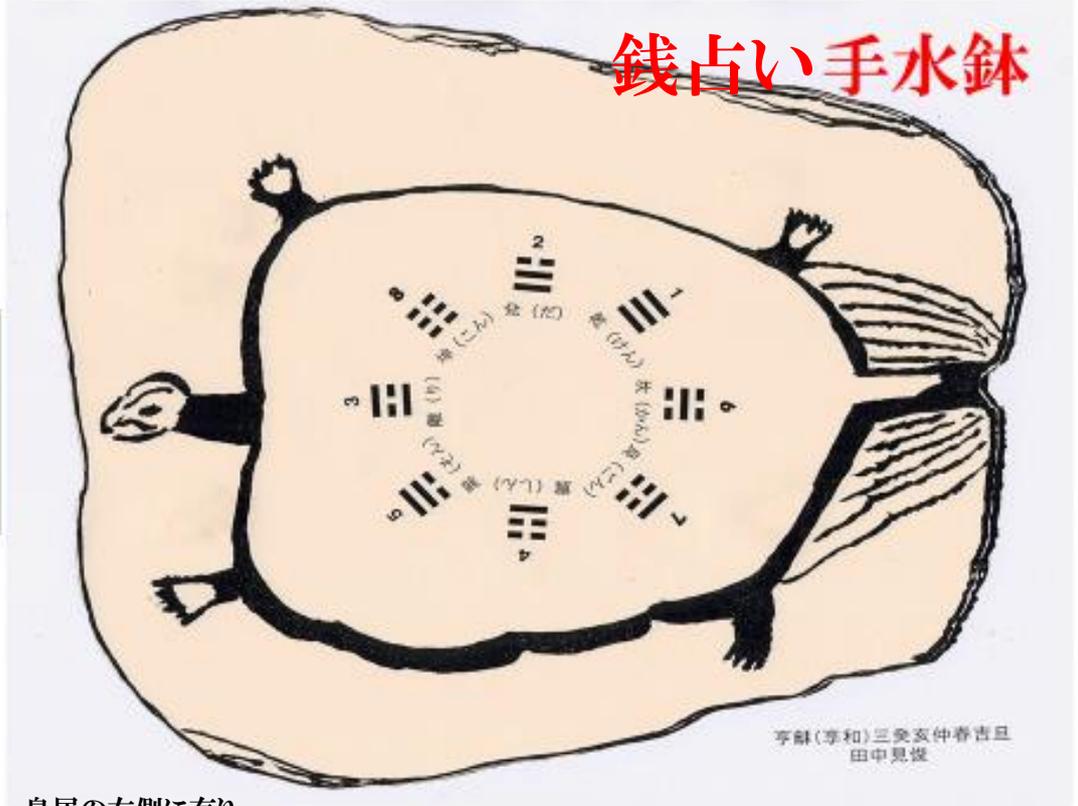
【常磐山八幡宮と大絵馬額】

宇治川の戦時争いで名を馳せた佐々木高綱が
建立したこの八幡宮は文治元年創建である。
後に、尼子経久によって再建立された。秋祭り
には夜神楽が夜明けまで奉納され、神楽殿には、
大型の絵馬額が16面掲示されている。裏山の
大杉の間には、創建当時の野外の的場が現存
している。鳥居の脇にある「手水鉢」は、享和
3年、医師の田中見俊が奉納したもので、亀の
姿が刻まれた水盤の中央部に八卦が刻まれて
いる。古くは、一文銭で八卦占いが行われて
いた。





☰	一 乾 (けん)	大吉・円満健全
☱	二 兌 (だ)	小凶・脆和親密
☲	三 離 (り)	中吉・明智光麗
☳	四 震 (しん)	中吉・勉強成功
☶	五 艮 (そん)	小吉・伏誥救益
☵	六 坎 (かん)	凶・憂沈伏寂
☱	七 艮 (ごん)	中吉・静高尚保
☷	八 坤 (こん)	小凶・順静謙讓



鳥居の右側に有り



八幡宮の歌碑2基

能海寛詠

夜を込めて
神舞明ぬる
里まつり
山田の中も
夜半のさかもり

明治三十三年二月八日打音鐘にて

能海寛詠

千はやふる
神やますらん
常葉山
みどりしげれる
奥ぞゆかしき

明治三十三年二月八日打音鐘にて





みんなで守る郷土の自然地域「常磐山のカシ林」

『自然観察会用ガイドブック』

2016.11.15

【作成者】波佐文化協会

浜田市金城町波佐イ 394

E-mail:bunka@hazaway.com